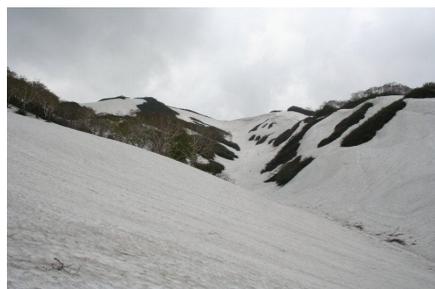


# 飯豊御西岳山行記録



中央の沢を登る



草履塚から飯豊山頂



松葉さん坂井さんと

目的地	大日杉～御西小屋	期 日	平成20年6月7～8日(土・日)
山行人	笠原正雄単独	特 記	先週に引き続き飯豊を楽しむ。今年は御西小屋まで。

地名	時刻	記 事
与板発	7日/3:45	高速・R113・山形県道8号。走行173km。6:30大日杉P着。天候：曇り
大日杉P	6:30～7:25	山形、新潟、宮城ナンバー等7台があった。のち熟年夫婦がやって来て歩き出して行った。コンビニ弁当で朝食、ゆっくり準備をしていると、新潟からの10数人隊が到着。一気に賑やかになる。新潟隊は地蔵岳方面に向かって行った。同時に、右折して地蔵岳に向かって歩き出す。
ザンゲ坂一合目標識	8:00	5分前に鎖場を登り、ザンゲ坂一合目の標識。この登りでどっと汗をかく。ここを過ぎればやや傾斜が緩む。イヌツゲ、イワカガミ、カタクリ、イワウチワほか。
長之助清水	8:15	登路から左に斜面道を10数m下る。山腹から湧き出した水が流れ落ちている。
御田	8:30	広い直進道に登っているが、標柱の矢印が右折を示している。そちらに進んでみたが、すぐに草が覆っている。戻って直進すれば、右折道と合わせる
虫刺され	9:15	緩い登りだが、着実に高度を稼いでいる。虫がうるさくなり、ディートをシャツと帽子に噴霧したが、効き目が無い。左の耳たぶを刺されて膨らんで来た。
鞍部	9:35	地蔵岳への鞍部に雪が残っている。登りに掛かって間もなく、夏道となる。
地蔵岳標柱通過	10:00	この手前で、朝先行入山の熟年夫婦が下山して来た。足慣らしの地蔵岳ピストンと言う。飯豊山から御西へはガスと進路が分かり難くなるアドバイスを貰う。
立ち休み	10:15～10:25	少し下って残雪上で休む。地蔵岳からここまでの間シラネアオイが多い。切合小屋が見えてきた。草履塚は良く見えるが、飯豊山はピークに雲がかかっている。
目洗い清水	11:00	小刻みに夏道の登降を繰り返し再び残雪となる。標柱が雪で倒されている。左の雪の下からどンドンと水が流れ出ている。すぐに夏道。
御坪	11:35～11:45	見事なダケカンパの道を過ぎて、御坪の小広場。種蒔山への尾根を見上げる。本日入山で、切合小屋でランチを楽しんで来たと言う夫婦が下りて来た。この先のルート取りを聞いたところ、彼らは御沢には降りなかったと言う。
御沢分れ	11:50	右に入る広い踏み跡があった。進んでみたが、10数メートルで途切れ、雪も無い。戻って直進する。ほどなく御沢分れの標柱前に着く。直前までどちらに行くか決め兼ねていたのが、足が右へ向いた。雪溪に下りる道が1本あったが、先に伸びる道を進み雪溪に降りる。この出口に赤布が下げてあった。
雪溪登りへ	12:00	沢の底部に向かって斜下降する。落石跡があったが、左岸からと思われる。右岸は喬灌木でその心配はないようだ。徐々に傾斜が増して来て、正面は壁になっている。登りやすい雪斜面を選べば、自ずと右に進路を取るようになる。最後は右手のピッケルに左手を添えて強く突き刺し、または、左手を雪面につけて四つん這いで急登する。キックステップもやや浅く、時々ブレードで足場をカットして立ち止まり、呼吸を整える。支尾根に上がり左に進めば切合小屋前が出る。
切合小屋	12:35～13:15	夏道を20数歩で小屋入口に着く。誰も居なかった。飯豊山が見える。ベンチでランチタイム。のち川入入山の女性一人が下って来て、同僚3人が山頂へ向かっているが、自分は不調のため草履塚まで戻って来たとのことだ。ここで皆を待ち、今夜は三国小屋泊と言う。彼女から聞いた話だが、種蒔山との鞍部で引水ホースから水が出ているようだ。本山は見えるが、その先はガスがかかっている。2万5千分地形図を広げて飯豊山から御西までのコースを再確認する。
夏道に降りる	13:50	切合小屋から夏道を少し下り、約30分の残雪登りとなる。掘られた夏道に降りる。すぐに草履塚。少し寒くなり長袖アンダーシャツの上で半袖シャツを重ね着する。
姥権現	14:10	御秘所を男女3人が下っている。彼らと行き交ったのち、単独若者男が降りて来た。御西まで行き、戻ってやはり三国小屋泊と言う。また、松葉さん(御西小屋管理人)が御前坂に登っていると聞いた。もしかすると、御西小屋泊は私1人かも知れないと思っていたので、今夜は安心して小屋で過ごせると嬉しくなった。

本山小屋	15:05~15:20	誰も居ない。昼の残りのイナリ寿司を食べる。ガスがかかって来た。休んだのもう一枚長袖シャツを着込み、鐘を叩いてから出発。山頂に向かうと風がやや強くなる。宝珠山頂に雲がたなびいている。飯豊山頂は写真を撮ったのみで通過。
駒形山との鞍部	15:45	腰を下ろして休んでいた松葉さんに追いつく。数分会話してから先行する。12日に資材運搬でヘリが飛ぶので、その下準備に来たとおっしゃっていた。
駒形山	15:55	この先の残雪歩きで、SAKAIと書かれた赤旗が施してあった。途中右に上る道が露出していて、御西岳山頂三角点へと続いていた。
御西小屋	16:45	ガスの中に黒い大きなかたまりが現れて小屋着。昨秋参加した登山道整備箇所はまだ雪の下だった。入室すると2階からラジオが聞こえ、一足だけあった。2階に上ると彼は右側に陣取っていた。左側の床が何故か濡れていたの、雑巾で拭く。また、風で揺られて天井材から落ちたのだろうか、細かい木片が散らばっていた。話始めれば、下越山岳会の坂井さん(以後Sと記す)と言う。同じく大日杉入山で大日岳を目指したのだが、先が見えないので諦め、2時から飲んでいたので。ザックの物を全部床に広げ楽々と使わせて貰う。暫らくすると松葉さんも到着し、私とSでビールを一杯ずつご馳走になる。何と美味しいことか。更に松葉さん、トッテつきペットボトルに茶色の液体を持って来た。底に黒いものが沈殿している。すすめられて恐る恐る飲んでみた。焼酎に挽いたコーヒー豆を入れたものだ。焙煎の焦げ味と甘みを感じられる。暫らく3人で話をしたが、松葉さんは1階に降りて行った。Sと会話を進めるうち、彼は、今春、HZUさんらと5人で歩いた高知山〜二王子岳の際、我々が鞍部で昼宴会をしている時、三王子から下って来た同山岳会4人隊のうちの一人であることが判明。Sよりズブロッカというポーランドの香草入りウオッカをご馳走になる。更に楽しく会話が弾む。8時頃就寝。
起床	8日/4:00	夜中に少し寒くなって一度目覚め、外に出てみたが、依然ガスが濃い。
御西小屋発	05:50	松葉さんは作業があり、もう一泊になりそうだ。Sと2人で歩き出す。ガスで視界は20~30メートル程度。風はほとんど無い。
残雪歩き	06:05	Sが赤旗を回収しながら進む。上空うっすらと青空がのぞいた。期待が持てる。
駒形山への途中	06:25	ここで残雪歩きは終わる。暖かくなって雨具上衣を脱ぐ。
飯豊山頂	06:50	この前後は風がやや強い。ガスの流れで左手の沢を見下せたが、すぐに覆われる。
本山小屋	07:10~07:25	中に入って休む。昨年泊まった2階に上ってみた。
姥権現	08:05	写真を撮りながら進み、Sから遅れる。ここで重ね着一枚を脱ぎ、草履塚の登り返しにかかる。これまで雲の中だった大日岳頂が見えて来た。
草履塚	08:25~08:40	私の携帯は不通だったが、Sのものは3本立った。借りて自宅に予定通りの旨を連絡する。大日杉を朝3:45分発で飯豊山日帰りピストンと言う健脚年配者がやって来た。
切合小屋	08:50~09:15	よく晴れて来た。残ったウイスキーを2人で分けて飲む。Sは昨日種蒔山別れ付近の残雪路に赤旗を使ったため回収しなければならない。ここで彼を見送り、私は少し遅れて、ピッケルに持ち替えて雪渓ルートを下る。上山と同じルートで降り、急斜面は途中からピッケルでスピードを抑えシリセードする。途中で停止して、御沢を見下ろし写真を撮る。
御沢雪渓の下り	09:25	急斜面を終えて振り返ったが、やや固い雪のせいで、シリセードのトレースが分からなかった。ピッケルからストックに持ち替える。
御沢分れ標柱	09:30	夏道に上がり標柱前。暑くなって脱ぎ、アンダーシャツ一枚になる。
地藏岳山頂三角点	11:10~11:20	昨日朝の新潟10数人隊のうちの4人男女が居た。その10数人隊の中に昨秋の登山道整備の際一緒に、私の顔を憶えていた方がいると聞いた。4人男女は昨日歩き出し後、地藏岳経由に変更して、ここをピストンしたと言う。渡渉覚悟の地藏山経由との2隊に分かれて、切合小屋で合流泊だったようだ。
大日杉P着	13:00	小屋では男性が小屋開け準備作業をしていた。
与板着	17:30	小国大滝温泉は清掃中で入浴不可。関川村ゆ〜ゆで入浴。新発田から高速。

昨年と同じ週の日・月に妻と弥平四郎から飯豊山を登った。その際、調子が良ければ御西までと思っていたが、途中、固い残雪下りや降雨で時間を要し、本山小屋泊で帰った。今回は、以前より気にかけていた大日杉からの入山である。御沢の雪渓登りが一つのポイントであるが、確かに急斜面だった。しかし、そう長くは無く、たとえ失敗して大事に至る心配は全く無かった。また、今回も情報等から判断してアイゼンは持参しなかった。

昨年は歩行中誰とも会うことは無かったが、今回山中で出会った人は全て上記した。そして、松葉さん、坂井さんとは思いがけず嬉しい再会で、御西小屋では、楽しく過ごせた。